

K140.7

2.1

2

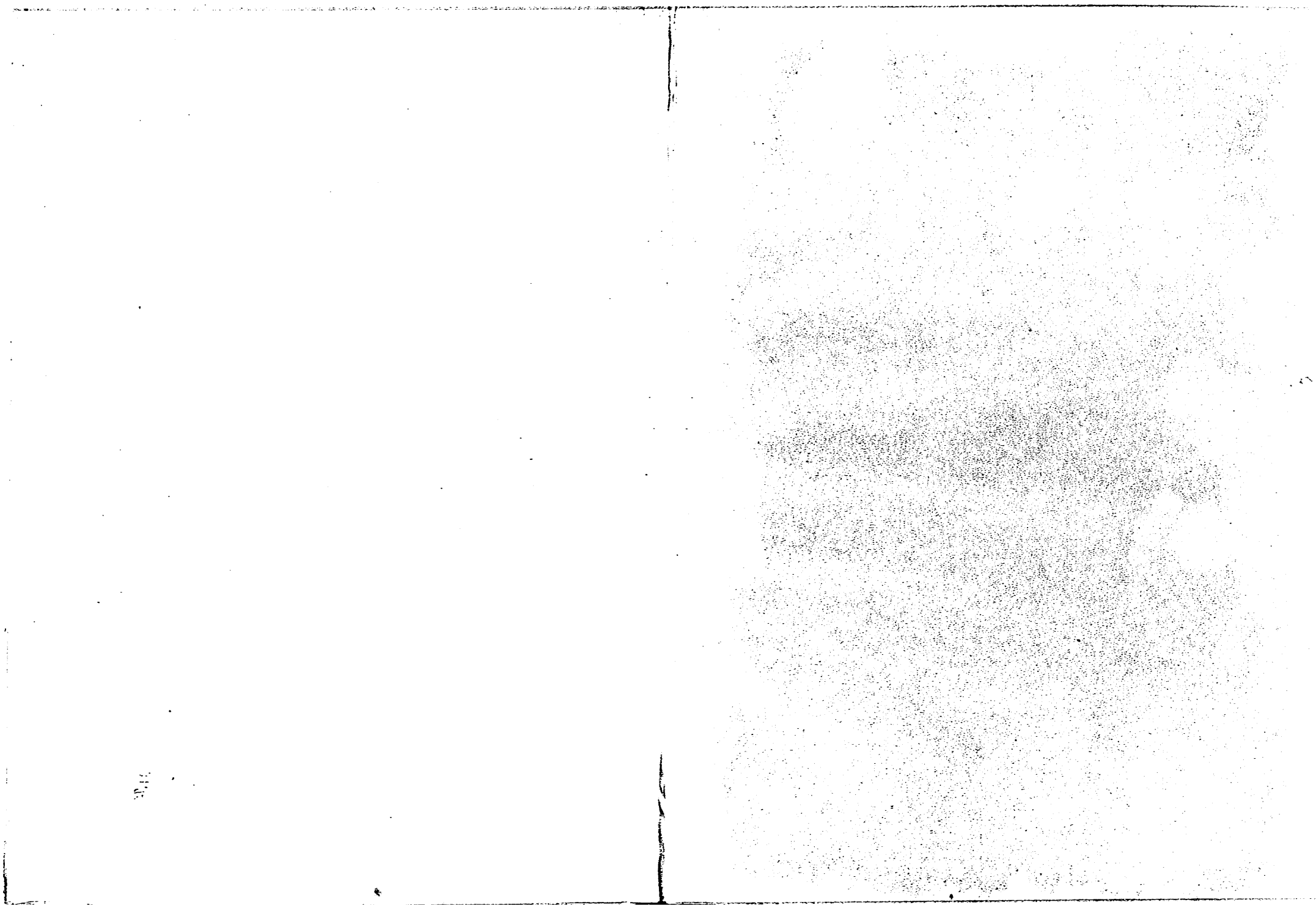
新訂
高等小學唱歌
伴奏附



第二學年用



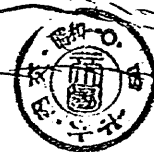
文部省



文 部 省

訂 新
高 等 小 學 唱 歌
伴 奏 附

第 二 學 年 用



緒 言

緒
言

- 一、本書ハ、音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、高等小學校唱歌科ノ教科用トシテ、新ニ編纂セルモノナリ。
- 二、本書ハ、各學年ソレゾレ男子用ト女子用トニ分テテ編纂シ、何レモ毎卷二十二章トセリ。内、各十五章ハ、男子用・女子用共通ノ教材、他ノ各七章ハ、男子用・女子用ノ別ニ從ヒテ、歌詞・樂曲トモニ相異ナルモノヲ以テ充テタリ。
- 三、本書ノ歌詞及ビ樂曲ハ、歌詞ニ高等小學讀本・農村用高等小學讀本所載ノ韻文ノ一部（第一學年用「昭憲皇太后御歌」、第二學年用「夏の曉」、第三學年用「稻刈」）ヲ採用セル以外、總ベテ本省ノ新作ニ係ル。
- 四、本書ノ教材排列ハ、程度ノ難易ノミニヨラズ、一面、歌詞ニ示サレタル季節・行事ニ就キテモ考慮セリ。
- 五、本書ハ、取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類作製セリ。但シ、後者ハ、男子用・女子用共通ノモノ、男子用・女子用各別ノモノヲ併セ掲ゲタルヲ以テ、各卷二十九章ヨリ成ル。
- 六、本書ノ樂曲ハ、事情ニヨリ、伴奏ヲ附セズシテ授クルモ差支ナシ。然レドモ、伴奏ヲ附スルコトニヨリテ、タダニ歌唱ニ便スルノミナラズ、ナホ歌曲ノ興趣ヲ増進セシムルコトヲ得ベシ。

七、唱歌曲ノミヲ掲ゲタルモノニ於テハ、伴奏ノ前奏・間奏・後奏ノ部分ニ對シテ、必要ナル休止符ヲ附シ、又ハ休止符ト併セテ當該箇所ノ伴奏ノ主要旋律ヲ記シ、以テ歌唱ニ便ナラシメタリ。

八、本書ノ唱歌曲中、重音ノ箇所ハ、事情ニヨリ、上部主要旋律ノミヲ採リ、單音唱歌トシテ課スルモ妨ゲナシ。其ノ際ニハ、正規ノ場合ト同一ノ伴奏ヲ附スルコトヲ得。

九、本書ノ樂譜ニ配當セル歌詞ノ記法ハ、概シテ新訂尋常小學唱歌ニ準ゼルモ、其ノ間、ナルベク發音上ノ實際ニ適切ナラシメンタメ、更ニ新ナル考慮ヲ加ヘタリ。

一〇、本書ノ樂曲ハ、概ネ中等諸學校ノ初年級並ビニ青年學校等ニ於テモ使用スルコトヲ得ベシ。

昭和十年三月

文 部 省

目 次

		男子用	女子用
一	若 草	二	二
二	千 里 の 春	六	六
三	羽 衣 (獨唱及び二部合唱)	10	二
四	小 鳥 よ	18	三
五	潮	22	四
六	初 夏	26	五
七	小 袖 曾 我	30	六
八	蓑 蟲 (二聲輪唱)	32	七
九	夏 の 曉	36	八
一〇	月 見 草	40	七
一一	街 路 樹	44	九
一二	夕 立 そ そ ぐ (二部合唱)	48	一〇
一三	山	54	一
一四	野 分	58	二
一五	秋 草	62	一〇
一六	清 少 納 言	64	一
一七	實 の り の 秋	68	三
一八	聖 恩	70	四
一九	明 治 神 宮	72	五
二〇	菊 の 香 (二部合唱)	76	六
二一	我 が 家	80	七
二二	校 庭 に て	84	八
二三	渡 り 鳥	90	七
二四	吉 野 の 宮 居	94	九
二五	霞 三 題	96	一〇
二六	少女のまとい (二部合唱)	100	一〇
二七	兄 弟 (二部合唱)	104	二
二八	姉 妹	108	二
二九	告 別 の 歌 (二部合唱)	112	二

若 草

若
草

$\text{♩} = 92$

p

一ツカクサ ノノベノ
ニわかき ははるの

$\text{♩} = 92$

mp

con 2nd

mp

カナタハ イソモナク スナハラモナ
しとねか くさのかを かぎつつすわ

mp

mf

ク ハテシナキ ウミニテアリ キ
り ゆくりなく うみをばおもふ

mf

二

若
草

mp

ウナバ ラ ノ アサニ ユフーベニ
うなばら も はるの ひなれは

mp

mp

ナギサ フ ク カゼノ ゴトクニ
わかくさは なみにもえずも

mp

mf

シホナリ フ ノベニテ キキ ス
かげろふ は うみより たたん

mp

rit.

三

二 若 草

一、若草の野邊のかなたは、

磯もなく、

砂原もなく、

果しなき海にてありき。

海原の朝にゆふべに、

渚吹く

風の如くに、

潮鳴を野邊にて聞きぬ。

二、若草は春のしとねか、

草の香を

かぎつつすわり、

ゆくりなく海をば思ふ。

海原も春の日なれば、

若草は

波に萌えずも、

かげろふは海より立たん。

千里の春

千里の春

$\text{♩} = 80$

$\text{♩} = 80$ のびやかに

8va

loco

f

mp

mp のびやかに

一ノモヲ
二わがミ
三ウミ

カモミドリニモエテクサノ
コクミヤウノホコナヤマト
エテハルカノカナカウ

mf

イロケムルカゴートシオホ
ミツミガクカゴートシオホ
ヤウハセタカクノビータマ

六

mp

ラモカスニミソタリメテ
シモノハツナモキハラギ

mp

ハテシラヌハルハキタ
ゆくところはるはかを
ヒロピロトハルハソタ

1.2. 3.

レリ

1.2. 3.

mp

3

f

mf

千里の春

七

二 千里の春

一、野も、丘も、緑に萌えて、

草のいろ、煙るが如し。

大空も、かすみわたりて、

はてしらぬ、春は來れり。

二、わが祖國・郷土の誇、

山と水、畫がくが如し。

蝶・鳥も、花を求めて

行くところ、春は薫れり。

三、海越えて、遙かなた、

高梁は、背高く伸びて、

滿洲の土もやはらぎ、

ひろびろと、春は渡れり。

羽衣

(獨唱及び二部合唱)

羽衣

♩ = 92

合唱

mp

ミ ホ ノ マ ツ バ ラ ク

mp

mf

mp

ラ ウ ラ ト ヒ ハ ハ レ ソ タ ル ソ

mf

ラ ノ ウ ヘ ア マ ツ フ ト メ ノ マ

mf

ヒ ノ ソ デ ア ダ ヤ カ ニ コ ソ ミ

mf

mp

10

羽衣

エ ニ ク レ

mp

天女獨唱

p

ア ラ カ ナ シ ヤ マ

p

mp

ツ ノ エ タ ノ ハ ゴ ロ モ ウ セ テ カ

mp

ヘ ル ス ベ ナ キ ク モ ノ カ ヨ ヒ デ

mp

11

羽衣

二

三

天女獨唱

三

羽衣

三、羽衣

合唱 三保の松原、うらうらと

日は晴れわたる空の上。

天津少女の舞の袖、あざやかにこそ見えにけれ。

天女あら、かなしや、

松の枝の羽衣失せて、歸るすべなき雲の通路。

合唱 得たりと拾ふ、濱の漁師、
持歸りてぞ寶にせんと。

天女衣なくては、如何にして 雲居のはてに歸るべき。

疾く疾く返せ、人間に 着る用もなき羽衣を。

漁師 返せとや、さて返せとや。いと惜しけれど、さらば返さん。

天人も、心しあらば、更に一さし舞ひても見せよ。

合唱 舞ふや、霓裳羽衣の曲。

見る見る、影は遠ざかり、

あとに残れる富士の山、うららかにこそ浮かびけれ。

羽衣

ミ ル ミ ル カ ゲ ハ ト ホ ザ カ リ

ア ト ニ ノ コ レ ル フ ジ ノ ヤ マ

ウ ラ ラ カ ニ コ ソ ウ カ ビ ケ レ

mp poco rit.

mp poco rit.

小 鳥 よ

小
鳥
よ

$\text{♩} = 66$

p

コ ト リ ヨ オ マ ヘ ハ ウ ミ カ ラ キ タ ノ カ

con

mp

コ ト リ ヨ オ マ ヘ ハ ヤ マ カ ラ キ タ ノ カ

mp

p

キ キ ナ レ ス コ ト リ ノ コ エ

p

一
八

小
鳥
よ

mf

mp

ウ ミ カ ラ キ タ ヲ ウ ナ ヤ マ カ ラ キ タ ヲ ウ ナ

mf

mp

p

p

メ ヅ ラ シ イ コ ト リ ノ コ エ ソ ナ レ マ ツ ノ

p

p

mp

p

ハ ヤ シ ニ ハ レ バ レ ト シ ター コ ト リ ノ コ エー

mp

p

一
九

四、小鳥よ

小鳥よ、

お前は海から来たのか。

小鳥よ、

お前は山から来たのか。

聞きなれぬ小鳥のこゑ。

海から来たやうな、

山から来たやうな、

珍しい小鳥のこゑ。

磯馴松の林に、

はればれとした小鳥のこゑ。

湖

湖

♩ = 50

mp

mp

一ハルノヒナレヤヒトリシテ
二はるのひなれやゆくりなく

スナヤマノカゲニクタズミケフー
すなやまのうへにのぼりてけふー

ハシーモウミノオトキクウミノオ
はしーもおきをながめつうみのお

trem.

p

三

湖

トキキツツヲレバタツナミハ
とききつつをれどにつなみは

mp

イトモハゲシクアラインニシロクダケ
いともしづけくあらいそにしろうたず

mf

テイハカゲニカキモウマレ
もいはかげにかきやうまれ

mf

ン
ん

三

五、潮

一、春の日なれや、

ひとりして

砂山すなやまの陰かげにたたずみ、

今日はしも 海の音おと聞く。

海の音おと聞きつつをれば、

立つ波なみは、いとも はげしく、

荒磯あらいそに白く砕けて、

礁陰さういんに、牡蠣かきも生まれん。

二、春の日なれや、

ゆくりなく、

砂山すなやまの上うへにのぼりて、

今日はしも 沖おきを眺ながめつ。

海の音おと聞きつつをれど、

立つ波なみは、いとも しづけく、

荒磯あらいそに白く打たずも、

礁陰さういんに、牡蠣かきや生まれん。

初 夏

初
夏

$\text{♩} = 96$

mp

一ゴツツノカゼーハサソ一ヤカーニ
二くさのかーかをーるのーむねーに
三ニとバリミチーノヤク一ガハニ
四けやきのーみきーのちーにーたかーく

mp

イロアルーゴトクナガレーキテ
ひはひらーびらーとさしーわたーり
ツラナルーナミキツカーバシテ
しぜんのーつよーさおもーはしーむ

初
夏

f

トクワイノーソラーハタダカーナタミ
ひかりとーつちーのよろこーびにい
ミヅエノーカゲーモノビヤカニモ
はやしはーさすーがふりたーれどな

ril. *a tempo* *mp*

ユルカギーリハアヲーキーカナ
きものーのーまふかげーもーみゆ
ルミドーリノイローマシス
つはーきたーれりあたーらーしく

ril. *a tempo* *p*

六初夏

一、五月の風は、さわやかに
色ある如く流れ來て、
都會の空は、ただかなた。
見ゆるかざりは青きかな。
二、草の香かをる野の胸に、
日はひろびろとさし渡り、
光と土の喜に
生物の舞ふ影も見ゆ。

三、新墾道の兩側に
つらなる並木、若葉して、
瑞枝の影も伸びやかに、
もゆる緑の色増しぬ。
四、樺の幹の、地に高く、
自然の強さ思はしむ。
林はさすが舊りたれど、
夏は來れり、新しく。

蓑 蟲

(二聲輪唱)

♩ = 69

mp 軽く

—ミノムシ ミノムシ ミノハ テノモノ

♩ = 69

mp 軽く

—ミノムシ ミノムシ ミノハ

♩ = 69

mp 軽く

mf

カサガナ イ カサハ ナクレド ミノサへ アレバ アメガ

mf

テノモノ カサガナ イ カサハ ナクレド ミノサへ アレバ

mf

mp

フツ テモ スレナイ グラウー ニみのむし

mp

アメガ フツ テモ スレナイ グラウー ニみのむし みのむし

mp

f *mp*

みのむし みのを はすなら あさがよい つゆは

mf

みのを はすなら あさがよい つゆは おちても

mf

mf

おちても こえだの みのは ちうーに ぶらりと おちない だらうー

f

こえだの みのは ちうーに ぶらりと おちない だらうー

mp

三ミノムシ ミノムシ ソトヘ デルニモ デラレナイ

三ミノムシ ミノムシ ソトヘ デルニモ デラレナイ

mp

mp

mf

ミドリ モエタツ ソカバノ ナカデ ミノハ イカニモ

mf

イ ミドリ モエタツ ソカバノ ナカデ ミノハ

mf

mf

p

メゲナイ デラウー 四みのむし みのむし

イカニモ メゲナイ デラウー 四みのむし みのむし どこに

p

mp

どこにあるのか こゑがない みのをきたまま

mp

あるのか こゑがない みのをきたまま かほさへ

mp

mp

mf

かほさへ たさぬ あきか こないと なかない だらう

mf

たさぬ あきか こないと なかない だらう

mf

mf

八、蓑 蟲

一、みのむし、みのむし、
蓑は手のもの、笠がない。
笠はなけれど、蓑さへあれば
雨が降つても濡れないだらう。

二、みのむし、みのむし、
蓑を乾すなら 朝がよい。
露は落ちて、小枝の蓑は、
宙にぶらりと落ちないだらう。

三、みのむし、みのむし、
そとへ出るにも 出られない。
緑もえたつ若葉のなかで、
蓑はいかにも脱げないだらう。

四、みのむし、みのむし、
どこにあるのか、聲がない。
蓑を着たまふ顔さへ出さぬ。
秋が来ないと鳴かないだらう。

夏の 暁

夏の 暁

♩ = 108

♩ = 108 軽快に

mf 軽快に

一ノコ ツ キ ノ カ ゲ フ ミ テ ウ
二ま た ル ほ し ヲ い た な き て つ
三ア サ く けー し ヲ ウ ナ ビ キ ア
四い へ ぢを い そ ぐ を め こ が か

タ フ シ ヲ 一 カ モ サ リ ヤ カ ニ ヲ
ウ の し ら た ま ふ み し た ー ー
ン グ ヒ ノ デ ノ ウ ラ ヲ カ ニ ヲ
ゴ に そ へ た る し ら ゆ り カ ニ

が ハ ノ ホ ー ト リ ウ シ カ ヘ ル ム
カ ひ オ を ー か ツ に ま く さ か ら さ
ハ シ ー ま み の の こ や ル ー に フ
は へ ま み の の こ や ル ー に フ

mp

三六

夏の 暁

mf

ヲ ノ ヲ ノ 二 ガ ム ネ ノ ヘ ヲ ツ
と の を と め が ま へ の を フ
ク の は こ び も い そ い そ と セ
し ャ の ニ こ び も い そ い そ と セ

ク ヤ ア サ カ ゼ ソ ヨ ー ソ ヨ ト ハ
く や あ さ か ゼ ソ よ ー ソ よ と は
い き あ ふ る る あ さ ー ぼ ら け は

タ ラ ク ミ ニ ハ ウ レ ヒ ナ シ
た ら く み ニ は う れ ひ な し
た ら く み ニ は の ぞ み あ り

なごやかに

p

三七

九 夏の曉

一、

残れる月の影踏みて、
歌ふ唱歌もさわやかに、
小川のほとり牛飼へる
村の男の子が胸の邊を、
吹くや朝風に
憂をよそよと。

二、

またたく星を戴きて、
露の白玉に踏みださる
向かひの岡にまぐさ刈る
里の少女が前髪を、
吹くや朝風に
憂をよそよと。

三、

朝食の煙うちなびき、
仰ぐ日の出の麗かに、
小牛追ひつ歸る子が、
吹くや口笛
生気溢るる朝ぼらけ、
生気溢るる望あり。

四、

家路を急ぐ少女が、
籠に添へたる白百合の、
にほへるまみのこやかに、
足の運びもいそいと、
生気溢るる朝ぼらけ、
働く身には望あり。

月見草

月見草

♩ = 100

mf

— ユフ — ギリ コ — ノ シ ク サ ヤ マ ニ ☆ ノ カ ニ
ニ ツ き か げ し — ろ く か ぜ ゆ ら ぎ ほ の か に

四〇

p

サ — キ ス キ ナ ル ハ ナ ミ ヤ コ ノ ト モ ト
さ — き め き な る は な み や こ に い ま す

mp *cresc.*

コ ン ノ ナ ツ タ フ リ ク ラ シ シ
お も ひ で の と も に お く ら ん

f *poco rit.*

オ モ ヒ デ ノ ハ ナ ヨ ハ ナ — ヨ
に ほ ひ こ め は な よ は — よ

mf *a tempo*

ソ ノ ナ モ ユ カ シ ツ キ — ミ サ ウ —
そ の な も い と し ツ き — み さ う —

月見草

四一

一〇、月見草

一、

夕霧のこめし草山に、
 のかに咲きぬ黄なる花。
 都の友と、去年の夏、手折り暮しし
 思出の

二、

月影の白く、風ゆかし、
 のかに咲きぬ黄なる花。
 都の友に贈らん、
 句こめ。

静友風、
 けよ清く、
 くも友、
 も、
 月見草、
 花丘に、
 咲きぬ。

かぜきよく - たもと - にかろし

ともよとも - よきたれをかに -

しづけくも - つきみさう -

はなさきぬ

はなさきぬ

はなさきぬ

街 路 樹

街
路
樹

$\text{♩} = 100$ *poco rit.*

$\text{♩} = 100$ *mf* *cre - - scen - do* *poco rit.*

mf a tempo

ア ツキ ヒザ シ ウケテ カ ゲヲ ヒト
ニし ろき ほこり おひて の べの とり

mf a tempo

ニ ア タ フ カ イロ ジュ ガ イロ ジュ シ ゲー レ
を し た ふ が いろ じゆ が いろ じゆ の びー よ

f *のびのびと*

ア ヲ ク ヒ ロ ク シ ゲー レ
た か く な が く の びー よ

四四

街
路
樹

p ツ ラ ク レ テ ヅ キ ノ ボ リ ホ シ ミ ナ ラ
mf く も い で て か ぜ は し り き た る ら し

p ヅ ヲ フ カ シ *mp* ネ ム レ ガ イ ロ ジュ
(mf) よ る の あ め ふ れー や が い ろ じゆ

p ハ ヲ タ レー テ シ タ タ ル
mf え た え たー を お ち く る

p ヅ ヲ ハ ヲ キ ヅ ヲ
あ めー は よ き あ め ぞ

四五

二、街路樹

一、暑き日ざし 受けて、

影を人にあたふ

街路樹、街路樹、しげれ、

青く、廣く、しげれ。

空暮れて 月のぼり、

星満ちて 露ふかし。

ねむれ、街路樹、葉を垂れて。

したたる露は よき露ぞ。

二、白き埃 負ひて、

野邊の鳥をしたふ

街路樹、街路樹、のびよ、

高く、長く、のびよ。

雲いてて 風走り、

來るらし、夜の雨。

振れや、街路樹、枝枝を。

おちくる雨は よき雨ぞ。

夕立そそぐ

(二部合唱)

夕立そそぐ

♩ = 69

mp 軽快に

一 ラ イ ヒ ト シ キ リ カ ゼ ヒ ト ソ タ リ
二 き ぎ ぎ わ め き て せ み な き や み て

mp 軽快に

一 ラ イ ヒ ト シ キ リ カ ゼ ヒ ト ソ タ リ
二 き ぎ ぎ わ め き て せ み な き や み て

mp leggiero

四八

夕立そそぐ

四九

ヤツデノ カケヲ イデコシ フトキガマ
いづこに わた る ゐ ひ さ き こひのむれ

ヤツデノ カケヲ イデコシ
いづこに わた る ゐ ひ さ き

marcato

ril. フトキガマ ヨロコビテ ヤウテヲツキテ
こひのむれ よろこびて ひたしへみぎへ

ril. フトキガマ ヨロコビテ ヤウテヲツキテ
こひのむれ よろこびて ひたしへみぎへ

colla voce p

f a tempo ウゴカザルセヲ タタキ タタキ
およぎゆくせを たたき たたき

f a tempo ウゴカザルセヲ タタキ タタキ
およぎゆくせを たたき たたき

f a tempo

ユフダチソソギ ソソグ
ゆふだちそそぎ そそぐ

ユフダチソソギ ソソグ
ゆふだちそそぎ そそぐ

p

二三 夕立そそぐ

一、 雷 一しきり、

風 一わたり、

黒雲くづれ、空をおほひ、

斜に飛びて 夕立そそぐ。

八つ手の陰を 出来し太き藁

(太き藁)

よろこびて、両手をつきて、

動かざる背をたたき、たたき、

夕立そそぎ、そそぐ。

二 木木 ざわめきて、

蟬 なきやみて、

黒蟻ぬれて 路を迷ひ、

池の面たたき、夕立そそぐ。

いづこにゐたる、小さき鯉の群、

(鯉の群)

よろこびて、左へ、右へ、

泳ぎ行く背をたたき、たたき、

夕立そそぎ、そそぐ。

山

山

$\text{♩} = 108$

mp

一 ア アヒン ガ シ ノ オ ホ ツ ラ ニ
二 あ あら く じ つ の い ろ う け て

mp

mf

ア マ ツ ソ リ タ ツ ハ ル ノ ヤ マ
を を し く そ び ゆ あ き の や ま

mf

f

ネ グ ラ フ イ テー シ ア ラ ソ シー カ
を さ な き ひ よー り あ ふ ぎ みー る

f

mf

ミ ネ ノ イ ハ ホー ラ ト ビ タ チ ラ
み ね の い は はー は わ か う ど に

mf

f

ク モ ノ カ ナ タ ニ カ ケ リ ユ ク
た か き り さ う ー を さ づ け た り

f

モロビト ア フ ゲ シ ノ ノ メ ノ
もろびと あふげ ゆふーやけの

f はぎれよく *mf*

キ バウ ニ ハ ユ ル ハ ル ノ ヤ マ
へ い わ に は ゆ る あ き の や ま

f *mf* *mp* 口笛の様に

poco rit.

poco rit.

一三 山

一、 ああ、東の 大空に
天そそり立つ、春の山。

ねぐらを出てし 荒鷺か、
峯の巖を 飛立ちて、雲のかなたに 翔り行く。

諸人あふげ、しののめの
希望に映ゆる 春の山。

二、 ああ、落日の 色うけて

雄雄しく聳ゆ、秋の山。

幼き日より あふぎ見る

峯の巖は、若人に 高き理想を 授けたり。

諸人あふげ、夕焼の
平和に映ゆる 秋の山。

野 分

野
分

♩ = 100

mf

f

mf

mp

mf

カ ノ ス ス キ ヲ オ シ ナ ビ ケ キ
マ い ね む り の ゆ め さ め ぬ ま フ
ク テ サ ヘ ギ ル モ ノ ハ ミ ナ

五
八

野
分

mf

mf

f

f

mf

ギ ノ コ ズ エ サ ユ ス プ ツ テ フ
ド の と ひ ら を ゆ り なた き ふ
ヨ イ ナ カ ラ ニ ウ ナ ナ ビ ケ

ケ フ ケ ノ ソ ケ ー オ
け ふ け の わ け ー ひ
ケ フ ケ ノ ソ ケ ー ン

モ ー ヒ タ ツ テ ハ ヤ ノ ラ レ ス
と ー の こ ー り に て ん ー ン の
ラ ア プ ト リ ノ ツ バ ナ サ の
レ ー ー ー ー ー ー ー ー

ヲ ト ノ ヤ ウ ナ イ ヒ テ テ
チ コ ノ ー ヲ ナ イ キ ホ ヒ テ
カ カ の ー ほ を み せ ね や
ソ マ ス ー ド ニ フ キ マ ク
タ マ ー ホ ト ニ フ キ マ ク

五
九

一四、野分

一、吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

丘⁺のすすきを 押⁺しなびけ、

木⁺木⁺のこずゑを ゆすぶつて。

吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

おもひたつては やめられぬ

男⁺のやうな いきほひで。

二、吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

あまい眠⁺の 夢⁺さめぬ

窓⁺のとびらを ゆりたたき。

吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

人⁺のところに 天⁺然⁺の

力⁺のほどを 見⁺せてやれ。

三、吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

ゆくてさへぎる ものは、みな、

強⁺い力⁺に うちなびけ。

吹⁺け、吹⁺け、野⁺わけ、

空⁺飛⁺ぶ鳥⁺の つばささへ、

たわますほどに 吹⁺きまくれ。

秋 草

秋
草

♩ = 108

♩ = 108

p

mp

一 ナ カ ル ル ク モ ノ イ ロ ニ サ ヘ
二 や ま ち を ゆ け ば を み な ヘ し
三 カ ハ ラ ニ ツ ツ ク イ チ ノ
四 お も へ ば ふ か き て ん ね ん の

mp

mf

ア キ ハ キ ニ ク ー リ ノ ニ ヤ マー ニ
あ き の ひ か ー を て り か ヘー す
ス ス キ モ ヤ ー テ ィ ニ イ デー ン
こ こ ろ な り け り あ き く れー ば

mf

mp

六二

秋
草

p

mf

キ キ ャ ツー イ ト ハー キ フ チ ハ カ マー
す が た を か しー き わ れ も か う まー
テ フ ー ノ マ ヒ ユー ク カ ナ ク ニ ハ
す か た や さ しー き は な く さ の

p

mf

mp

1. 2. 3. 4.

カ セ ニ ソ ヨ ギ テ サ キ ャ メ ス
ち さ き の ぎ く の め て た さ よ
ア カ ナ デ シ コ ム レ サ ケ リ
い ろ も し づ け き ふ ぜ い あ

mp

1. 2. 3. 4.

一、流るる雲の色にさへ、
秋は来にけり、野に、山に、
桔梗、いとほき、ふぢばかま、
風にそよぎて、咲きそめぬ。
二、山路をゆけば、をみなへし
秋の光を、照りかへす。
姿をかしき、われもかう、
小さき野菊の、めでたさよ。
三、河原につづく、一面の
薄もやがて、穂に出てん。
蝶の舞ひゆく、かなたには、
あかきなてしこ、群咲けり。
四、思へばふかき、天然の
こころなりけり、秋来れば、
姿やさしき、花草の
色も静けき、風情あり。

一五、秋 草

六三

清 少 納 言

清少納言

$\text{♩} = 84$

mp

一 カウ ー ロ ホウ ー ノ ー ユ
二 ま く ら の びう ー し を
三 ウ タ ニ ナ ア ル ー モ

mp

v p

キ ハイ カ ニ ト ノ タ マ ハ ス キ
り に ふ れ つ つ か き つ け し し
ト ス ケ ノ コ ト ウ マ レ キ テ ク

p

六四

清少納言

v mf

サ キ ノ ミ ヤ ノ ミ コ ト バ ニ ミ
きよう ー の ふ で の あ た ら し く い
タ コ ソ ヨ バ ネ シ ユ ン サ イ ノ ナ

mf

v f

ス フ カ カ ゲ テ サ イ ガ ク ノ タ
ろ も に ほ ひ も な ら ひ な き た
カ ニ マ ジ リ テ イ ヤ サ ラ ニ タ

f

v mf

カ キ ホ マ レ フ ノ コ シ タ リ
か き ほ ま れ を つ に へ た り
カ キ ホ マ レ ハ カ ガ ヤ キ ス

mf

六五

一六、清少納言

一、香爐峯の

雪はいかにとのたまはす

きさきの宮のみ言葉に、

御簾をかかけて、才學の

高きほまれをのこしたり。

二、枕草子

をりにふれつつ書きつけし、

詩興の筆の新しく、

いろもにほひもならびなき、

高きほまれを傳へたり。

三、歌に名ある

元輔の子と生まれ來て、

歌こそ詠まね、俊才の

中にまじりて、いやさらに

高きほまれは輝きぬ。

實のりの秋

實のりの秋

♩. = 80

♩. = 80 生々と

mf

con Rca

mf 生々と

一ミノリノアキ ハキタ リヌ 一 ユタケ
二たりほの いね はこが ねに 一 なみう

p

mf

p

mp

ク モ 一 カドタ ノ アタ リ ヨロコ
て り 一 みわた す たの も かちど

mf

mp

mf

六八

1. *f* *rit.*

ビ ノ コ エ ノ クヅ マ キ クヅ 一 マク 一
き は た か く と ど ろ

f *rit.*

12. *f* 一段と速く

き と ど 一 ろ く 一

12. *più allegro* *f* *più f* *ff*

實のりの秋

一、實のりの秋は
来りぬ、ゆたけくも。
門田のあたり、
よろこびの聲の
うづまき、うづまく。
二、垂穂の稻は、
黄金に波うてり。
見わたす田の面、
かちどきは高く
とどろき、とどろく。

一七、實のりの秋

六九

聖 恩

聖 恩

♩ = 88

一 ア ム ツ ヒー ノ ラ ラ サ ン キ ハ ミ
 ニ と ほ き よー の つ た へ な れ ど も
 ミ タ カ キ オー ン フ カ キ メ グ ミ ラ

♩ = 88

p

mp

ソ リ アー フー ゲ チ ヨ ダ ノ ミ ヤ ナ
 か に の こー る お ン し の み け し
 ア サ ユ フー ニー カ ウー ム ル ワ レ ラ

mf

オ ホ キ ミ ハ カ ミ ノ ミ ス エー ズ
 お み と し て き み に さ さ ぐー る
 ヨ ロ ブ ヨ ニ ス メ テ ミ カ ドー ノ

七〇

聖 恩

f *mf* *rit.*

カ シ コー シ ヤ ウ ヤ マ ヒ マ ツ レ
 ま ご こー れ の た め し と な れ り
 ミ サ カー エ ラ コ ト ホ ギ マ ツ レ

三 二 一

御 萬 朝 高 ま 臣 香 遠 畏 大 ふ 天
 榮 代 タ き ご と に き し 君 り つ
 を に に 恩 こ し 残 世 や は 仰 日
 こ か ろ て る の 神 げ の
 と す う 深 の 君 恩 傳 敬 の 照
 ほ め む き た に 賜 な ひ 御 千 ら
 ぎ ら る 恵 め 捧 の れ ま 裔 代 さ
 ま み 我 を し ぐ 御 ど つ ぞ 田 ん
 つ か 等 と る 衣 も つ れ の き
 の な れ り 居 み

一八 聖 恩

明治神宮

明治神宮

$\text{♩} = 100$

mf

一 ア ナ ヒ ノ ゴ ト ク タ ダ シ ク ツ ヨ ク
二 つ き こ と ふ か く と し こ と ひ ろ く
三 タ フ ー ト キ タ カ キ イ ヤ シ キ ヒ ク キ

$\text{♩} = 100$

mf

f

ヒ ト ス ナ ナ ホ ク ヒ ラ ケ ス ス ム
よ ろ こ ひ よ も に あ ふ れ み ち て
ク ニ タ ミ ナ ベ テ ヒ ト ツ マ ナ ゴ

f

mf

ヒ イ ヅ ル ミ ク ニ ノ ヒ カ リ フ ツ ト ニ
か い こ く に ほ ん の ゆ う ー ひ の も と の
ア ハ レ ミ ハ ク ク ミ ミ チ ビ キ ク マ ヒ

f

七二

明治神宮

ff

ハ ナ チ タ マ ヒ シ オ ホ ー ミ カ ド
か た め た ま ひ し お ほ ー み か ど
チ カ ラ タ マ ハ ル オ ホ ー ミ カ ド

ff

mf

p

シ ヅ マ リ マ シ マ ス ヨ ヨ キ ノ ミ ヤ
し づ ま り ま し ま す よ よ き の み や
シ ヅ マ リ マ シ マ ス ヨ ヨ キ ノ ミ ヤ

p

mp

mf *poco rit.*

ユ カ シ カ シ コ シ ヨ ヨ ー キ ノ ミ ヤ
ゆ か し か し こ し よ よ ー き の み や
ユ カ シ カ シ コ シ ヨ ヨ ー キ ノ ミ ヤ

mf *poco rit.*

七三

一九、明治神宮

一、朝日の如く正しく強く、

一すぢ直く開け進む

日出づる御國の光を夙に

放ちたまひし大帝

しづまりまします代代木の宮

床し、畏し、代代木の宮

二、月ごと深く、年ごと廣く、

よろこび四方に溢れ満ちて、

海國日本の雄飛の基

固めたまひし大帝

しづまりまします代代木の宮

床し、畏し、代代木の宮

三、貴き、高き、賤しき、低き

國民なべて一つ愛兒

あはれみ、はぐくみ、導きたまひ、

力賜る大帝

しづまりまします代代木の宮

床し、畏し、代代木の宮

菊の香

(二部合唱)

菊の香

♩ = 92

mp

—ソ ラ キ ヨ ラ カニ ス ミ —ソ タ ル —ア
ニ あ と に は つ づ く は な —も な く —ひ
三 ソ ガ シ キ シ マ ノ ク ニ —ガ ラ モ —キ

mf

vp

キ ノ ラー ハ リ ニ サ キ —イ デ テ コ
と り ひー さ し く に ほ —ひ つ つ お
ヨ キ カー ラ リ ニ フ ク —マ レ テ チ

p

七六

菊の香

mp

コ —レ シ ヅ カニ ヒー ト —ノ ヨ ノ チ
く —は つ ゆ し も か —は —れ ど も か
ヨ —ニ ヤ チ ヨ ニ カ —キ —リ ナ キ ヨ

mp

mf

リ サヘ スー エ ス キ ク —ノ ハ ナ
は らぬ い ろ の き く —の は な
ハ ヒヲ ノー プ ル キ ク —ノ ハ ナ

mf

mp

七七

二〇、菊の香

一、空清らかに澄みわたる

秋の終に咲きいでて、

心しづかに、人の世の

塵さへ据ゑぬ菊の花。

二、後にはつづく花もなく、

ひとり久しく匂ひつつ、

置くは、露霜かはれども、

かはらぬ色の菊の花。

三、わが敷島の國がらも、

清き薫にふくまれて、

千代に、八千代に限りなき

齡を延ぶる菊の花。

我が家

我が家

$\text{♩} = 72$

mp mf p

一ツガ イヘハ マヅ シクモ タラハ スコトナク ムツ
二わが いへは なにごとも ころを あはせて わさ
三ツガ イヘハ ナツ フユモ ヒモヨ モオタシク スコ

mf cresc.

マ シク タノ シ キ イヘ ナ リ ア シ
は げむ たの し キ イヘ ナ リ ヲフ
ヤ カニ タノ シ キ イヘ ナ リ チチ

八〇

我が家

f

タニハ ホシカゲ アフーギ ハタケ ニイデー テヤ
べには つきかげ ふみーて いへ ゐにかーへー りい
ハハノ コトバヲ マモーリ ナカラ ヲアハセ シ

mf mp

ス ラ ケー ク ヒーゴ トスーゴーセーリ
ち に も の つー か れ やーすーめーつ
タ シ ミーテ トーモ ニハーターラーク

八一

二、我が家

一、我が家は、貧しくも、

足らはぬ事なく、

むつまじく

たのしき家なり。

朝には星かけあふぎ

畠に出でて、

安らけく日毎すごせり。

二、我が家は、何事も

心をあはせて

業はげむ

たのしき家なり。

夕には月かけふみて

家居にかへり、

一日の疲やすめつ。

三、我が家は、夏・冬も、

日も、夜も、おだしく、

すこやかに、

たのしき家なり。

父母の言葉を守り、

力をあはせ、

親しみて共にはたらく。

校庭にて

校庭にて

$\text{♩} = 88$

f leggiero

p

cresc.

f

p 軽快に

V

一ユタケキ ハルノ アサヒヲ アビテ イマー
ニさやけき あきの ゆふひの かげに ともー

p

八四

校庭にて

(V)

ン ヲ ド ル ソ カ キ イ ノ ー ナ
と か た る こ こ ろ し づ ー か

fp

p 柔かに

V

アカヨ アカヨ マクロナカテ キ
みよや けふーも くれゆくそら を

fp

V

ツケヤ フセグ ソレシロシロ ヨ
ゆめと すぎぬ われらのやとせ

tr

八五

やゝ重く *mf* *cresc.* *f*

キヨキチシホハホホニモエテ
をさなきおもひでむねにわきて

p 軽く柔かに

タマウケタマケルヲシヘノニハ
まどとぢひとなきかうしやのほと

mf

ニクワンセイアガレバコズエ
りうたごゑはなてばこずゑ

f *(V)*

ニヒビキマンタイミルミル
にひびききんせんひらひら

p

ハナッブキ
いてふちる

p *mf* *ff*

三、校庭にて

一、ゆたけき春の朝日を浴びて、

今ぞ躍る、若き命。

赤よ、赤よ、負くるな、勝てや。

突けや、防げ、それ、白、白、よ。

清き血潮は頬にもえて、

球受け、球蹴る、教の庭に、

歓聲あがれば梢にひびき、

満庭見る見る、花吹雪。

二、さやけき秋の夕日の影に、

友と語る、こころ静か。

見よや、今日も暮れゆく空を。

夢と過ぎぬ、われらの八年。

幼き思出胸にわきて、

窓閉ぢ、人なき、校舎のほとり、

歌聲放てば梢にひびき、

金扇ひらひら、銀杏散る。

渡り鳥

♩ = 80

♩ = 80

mp

p

con Rad

mp

mp (p)

一 ヨヲヒニツギテソタリク—ル
二 いまおほぞらをわたりき—て
三 ナホユクサキハハルカナ—ヲ
四 Pよをひにつぎてさむぞら—を

mf

mp

mf (mp)

mp

con Rad

p

p

フ ユ ノ ハ ジ メ ノ ソ タ リ ド ソ ナ
ト ホ ク ト ビ コ シ ヒ マ モ ク チ
ふ ゆ の は じ め の わ た り ど り *mp* チ

サ キ ツ バ サ モ ス コ ヤ カ ニ イ
さ き つ ば さ を か ヘ リ ミ テ い
さ き つ ば さ も ツ カ レ ニ キ イ

ク ヤ マ カ ハ ヤ ス ギ タ ケ シ
く ひ の た ひ や お も ふ ん
ク ト モ ガ ラ ト ハ グ レ フ ツ

に う

渦まきながら
渡りゆく。

一段と速く

吉野の宮居

吉野の宮居

$\text{♩} = 80$

mp

一メ グル シュン ジウー ゴジフー シ チ
二つ も る せ い さいー ごじふー し ち

p

パ ンジョウー ノ キ ミ カ シ コ クー モ
ちゆうー せ つ の し ん つ ぎ つ ぎー に

mp mf

ナ ヤ マ セ タ マ フ ヨ シ ノ ヤ マ
み ま か り う せ ぬ よ し の や ま

mp mf

九四

mp

ハ ナ ノ イ ロ ホ コ レ ド モ ハ レ ヤ ラ ス オ ホ ミ ウ タ
つ き の か ほ さ ゆ れ ど も か さ く も る あ め の し に

mp

ア ア ハ レ ヤ ラ ス オ ホ ミ ウ タ
あ あ か き く も る あ め の し に

p

吉野の宮居

二四、吉野の宮居

一、めぐる春秋 五十七
萬乗の君 かしくも
なやませ給ふ、吉野山
花の色 ほこれども
はれやらぬ 大御歌
あ、はれやらぬ 大御歌
二つもる星霜 五十七
忠節の臣 つぎつぎに
身まかり失せぬ、吉野山
あ、かきくもる 天の下
あ、かきくもる 天の下

九五

霰 三 題

霰
三
題

$\text{♩} = 144$

$\text{♩} = 144$ 軽快に

mp

mf 軽快に

一 ヒ サ シ ラ タ ク オ ト タ カ ク
二 お ほ ぞ ら く か ぜ う な り
三 ム ラ ヨ リ ム ラ ヘ ヒ ネ モ ス フ

mf

イ ノ チ ア ル ゴ ト ア ー ラ ー ツ ヒ テ
く も の う へ な る く に ば ら に
テ プ リ ア シ ズ リ オ ー モ ー シ ロ ク

mf

九六

ハ ネ テ フ ド リ テ ハ チ ク エ ノ
お ぞ や い く さ の は じ ま り て
サル ラ マ ハ シ ラ フ ド ラ セ テ

mp オ モ ト ノ ハ ト ハ ニ ハ サ マ リ テ
mf に り な は な り と や そ れ だ ま の
mp フ カ レ テ カ ー ヘ ル サ ル ヒ キ ノ

mp
(mf)
(mp)

タ タ ヒ ト ー フ ガ ア ケ ノ ミ ニ
と び く る ー ご と く ち る ご と く
セ ニ サ ム ー ザ ム ト ネ ム リ ラ ル

mf フ ト ナ ラ ビ タ ル ア ラ レ カ ナ
い ま ふ り し き る あ ら れ か な
サル オ ド ロ カ ス ア ラ レ カ ナ

mf

霰
三
題

九七

二五、霰三題

一、

廂をたたき音高くひて
命あるごと争ひて

鉢植の葉と葉に

萬年青の葉と葉に
はさまりて、
紅の實に

ふと並びたる
霰かな

二、

大空く風なり
雲の上なる國原に

おそや、
戦の

始りて

三、

たけなはなりとや、
飛來る如く彈丸の如く
今降りしきる

霰かな

村よりへ、ひねもすを
手ぶり足ぶりおもしろく
猿をまはして

をどらせ、

疲れて歸る

背に寒と眠りを
猿驚かす

霰かな

少女のまとう

(二部合唱)

少女のまとう

♩ = 69

mp

一 オ ナ ジ フ ト ノ ト ウ マ レ キ テ
二 む ね に あ ふ る は な の ゆ め
三 ュ ク テ ハ ル ケ キ ヨ ノ ナ カ ニ
四 お な じ お も ひ に う た ひ つ

♩ = 69

mp

一 オ ナ ジ フ ト ノ ト ウ マ レ キ テ
二 む ね に あ ふ る は な の ゆ め
三 ュ ク テ ハ ル ケ キ ヨ ノ ナ カ ニ
四 お な じ お も ひ に う た ひ つ

♩ = 69

mp

mf *mp*

コ ロ ノ ア ヘ ル ト モ タ チ ト
の ど み に み て る ゆ く す 辰 の
カ タ ミ ノ ミ チ ハ ケ ハ シ ク モ
あ ふ げ ば う か ぶ あ を ぐ も も

mf *mp*

コ ロ ノ ア ヘ ル ト モ タ チ ト
の ど み に み て る ゆ く す 辰 の
カ タ ミ ノ ミ チ ハ ケ ハ シ ク モ
あ ふ げ ば う か ぶ あ を ぐ も も

mf *mp*

100

少女のまとう

♩ = 69

mp *rit.*

シ ツ カ ニ カ タ リ ア ソ ビ ウ ル
か な た の そ ら を お も ふ に も
テ ニ テ フ ツ ナ ギ タ ス ケ ン ト
ひ か り を そ へ て し た し げ に

♩ = 69

mp *rit.*

シ ツ カ ニ カ タ リ ア ソ ビ ウ ル
か な た の そ ら を お も ふ に も
テ ニ テ フ ツ ナ ギ タ ス ケ ン ト
ひ か り を そ へ て し た し げ に

mp *rit.*

♩ = 69

mf a tempo

ケ フ ノ マ ト キ ノ ウ レ シ サ ヨ
わ か き い の ち は た の し き に
カ タ ル マ コ ト ノ タ ノ モ シ サ
け ふ の ま と む を い は ふ ら し

♩ = 69

mf a tempo

ケ フ ノ マ ト キ ノ ウ レ シ サ ヨ
わ か き い の ち は た の し き に
カ タ ル マ コ ト ノ タ ノ モ シ サ
け ふ の ま と む を い は ふ ら し

mf a tempo

101

二六、少女のましろ

一、おなじ少女と生まれ来て、

心のあへる友だちと、

静かに語り遊び得る、

今日のましろのうれしさよ。

二、胸にあふる花の夢、

望に満てる行末の

かなたの空をおもふにも、

若きいのちは樂しきに。

三、行手はるけき世の中に、

互の道はけはしくも、

手に手をつなぎ助けんと、

語るまことのたのもしさ。

四、同じおもひに歌ひつつ

仰げば浮かぶ青雲も、

ひかりを添へて親しげに

今日のましろをいはふらし。

兄弟

(二部合唱)

兄弟

♩ = 58

p

弟カヘリミルサギリノカドニ
兄かたごかのさざりのはたに

p

カスミツツタフカゲハハハヨ
かすみつつくはふるはちちよ

104

兄弟

mp ♩ = 88 合唱

ソレヲオクル
あさよりはーび

mf

ノアイトチカラニイキテ
きはひもなみだもともにひ

cresc.

ラチネノオホキミキヨリ
としなみおひしわれらの

105

二七 兄弟

弟かへりみる 狭霧の門に、
かすみつつ 立つ影は母よ、
我等を送る。

兄弟の 狭霧の 焔に、
かすみつつ 鉄振るは父よ、
朝より勵む。

この愛と力に生きて、
垂乳根の大き幹より 枝分けしはらかなれや。

その枝に花の咲かずば。
その花のあだに散りなば。

さきはひも、涙も、ともに、
ひとしなみ生ひし我等の、
その花に實をば結ばん。

エタリ ケシ ハラカ ラナレーヤ
のびのび つほづえ となりて

ソ ノエダ ニ ハナ ノ サカズ バ
そのえだに はなをかざらん

ソ ノハナ ノ アダニ チリ ナ バ
そのはなに みをばむすはん

姉 妹

姉
妹

♩ = 80

p *f* *mp*

一 モ モ ノ ハ ナ サ ク
二 よ め な つ み あ ふ

p *pp* *p*

ヒ ナ マ ツ リ ハ ル サ ン グ ツ ノ
く さ づ つ み は や ゆ ふ ー ぎ り の

cresc. *cresc.*

姉
妹

p

ド チ カ ク ア ネ ト ヨ ビ
こ め に れ ば あ ね と よ ひ

mf

イ モ ト ト ヨ ビ テ ム ツ マ シ ク
い も と と よ ひ て か に り つ つ

mf

f

メ デ ツ ツ ヒ ナ ラ カ ザ リ ケ リ
て を と り あ ひ て か へ り け り

f

姉
妹

mf *rit.* *mf* *Tempo I* *pp*

ア ア コ ロ ヤ サ シ ア ネ イ モ ト イ ク タ ビ
あ あ こ こ ろ や さ し あ ね い も と い く た び

mf *rit.* *non lunga* *p* *mf* *pp*

p

ハ ル ハ メ グ ル ト モ カ ハ ラ ス
は る は め ぐ る と も か ほ ら ぬ

p

mp *p*

ア ネ ノ ホ ホ エ ミ ヨ イ ト シ キ
あ ね の ほ ほ え み よ い と し き

mp *p*

姉
妹

mp *rit.*

イ モ ト ノ ホ ホ エ ミ ヨ
い も と の ほ ほ え み よ

mp *rit.*

二八 姉妹

一、桃の花咲く 雛祭、春三月の窓近く、
姉と呼び、妹と呼びて、睦しく、
めでつつ 雛を飾りけり。
あ、心やさし、姉妹。

幾たび春はめぐるとも、
變らぬ姉のほほゑみよ、
いとしき妹のほほゑみよ。

二、よめな摘合ふ草堤、はや夕霧のこめたれば、
姉と呼び、妹と呼びて、語りつつ、
手を取合ひて 歸りけり。

あ、心やさし、姉妹。
幾たび春はめぐるとも、
變らぬ姉のほほゑみよ、
いとしき妹のほほゑみよ。

幾たび春はめぐるとも、
變らぬ姉のほほゑみよ、
いとしき妹のほほゑみよ。

告 別 の 歌

(二部合唱)

告別の歌

♩ = 84

mp

mp

mf

ハ ナ ハ ナ ケ ド ト リ ハ ウ タ
は の く さ き も あ た り の な が

mf

へ ど ツ ザ フ ヘ シ ヨ ロ コ ビ ア レ ド イ
め も な つ か し の お も ひ で み て い

一一一

告別の歌

マ ゴ シ ル ソ カ レ ノ コ コ ー ー ル
ま より ど こ ころ に か か ー ー る

や、おそく
心をこめて

シ ノ キ ミ ノ ア フ キ ミ フ シ ヘ カ ギ
よ さ と も よ さ ら ば わ か れ ぞ ま こ

meno mosso

p espressivo

mf

p

mf

mf

poco rit.

f

poco rit.

*

一一三

* 此のふルマータをもてる四分音符は、前段の速度をうけて約三拍の間延び、

Tempo I

mf

ソ レ ー ナ ミ ー ナ イ ハ デ リ ス ー
わ れ ー ら と ー て い か で わ ー す ー

Tempo I

mf

mp

レ ン コ ノ マ ド ニ マ ナ ビ ー
れ ん こ の そ の に む っ び ー

mp

mp

シ ヒ ヲ ー バ ニ ば

mp

f

二九、告別の歌

一、花は咲けど、鳥は歌へど、
業卒へし喜あれど、
今ぞ知る、わかれの心。
師の君の厚き御教、
限りなき愛よ、光よ。
我等みな、いかで忘れん、この窓に學びし日をば。

二、庭の草木も、あたりのながれも、
なつかしの思出満ちて、
今よりぞ心に繋る。
よき友よ、さらば別ぞ、
信もて永遠に思へや。
我等とて、いかで忘れん、この園に遊びし日をば。

K140.73-2.1-2

新訂
高等小學唱歌
伴奏附

不許複製

初

第二學年用 定價金五拾六錢

昭和十年四月十二日印刷
昭和十年四月十五日發行

著作權者 文 部 省

東京市京橋區銀座一丁目五番地
發行者 大日本圖書株式會社

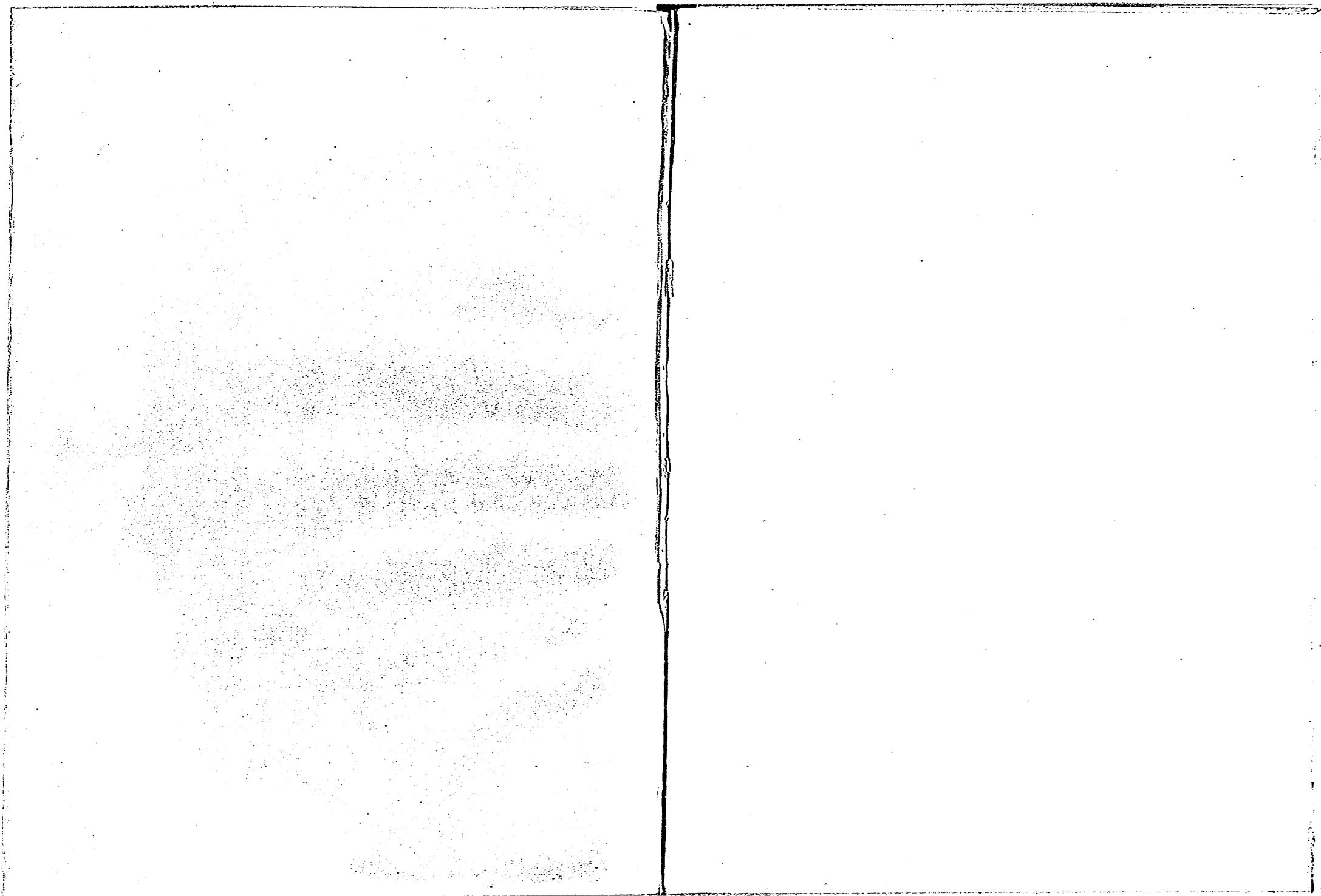
代表者 專務取締役 杉山常次郎

東京市小石川區久堅町百〇八番地
印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百〇八番地
印刷所 共同印刷株式會社

東京市京橋區銀座一丁目五番地
發行所 大日本圖書株式會社

振替貯金口座(東京二一九番)電話京橋二七三番二七四番



363

501